

### 第三章 臺灣海軍炭山

明治二十八年臺灣我有ニ歸シ臺灣總督府ヲ置カル、ヤ同府軍務局海軍部長 角田秀松ハ臺灣ノ地ガ有事ニ際シ孤立敵ニ當ル場合ノ軍需自給ヲ慮リ軍用資源ノ調査ニ努ムル處アリ就中石炭ニ關シテハ明治二十九年十一月同部々員海軍少佐瀧川具和ヲシテ殖產部礦務課長技師沖龍雄ト同行同島北部ノ炭山ヲ調査セシメタリ 本調査ハ約二週ノ短時日ニ於ケル極メテ概略ノ踏査ナリシガ其ノ調査箇所ハ

(明治九年)

臺灣炭田調査

一、有蚋庄炭坑

一、叭連港炭坑

二、埠內炭坑

一、北港口炭坑

一、石碇堡大墘

溪大坑埔炭坑

一、四脚亭炭坑

×

×

×

×

一、石碇堡鱗魚坑炭坑

一、石碇堡碇內大坑內庄炭坑

一、大水窟炭坑

一、田藔港大水窟嶺炭坑

一、深澳坑嶺腳炭坑

一、八斗山炭坑

一、竹竿厝炭坑

一、八斗及深澳堵炭坑

一、瑪鍊港內崁腳炭坑

一、大竿林炭坑

一、內木山炭坑

一、外木山炭坑

× × ×

## 一、南港仔紅淡林炭坑

等ニ及ベリ而シテ之等炭質ハ概ネ良好ナラザリシガ角田海軍部長ハ其報告書ニ比較的有望ノ見込アル八鑛（前記×印ノモノ）ノ見本炭ヲ添ヘテ海軍大臣ニ進達シ海軍炭坑ノ選定方ヲ上申セリ（二十九年十一月臺海二甲第七五號）。

尙同官ハ其中ニテモ將來海軍炭坑トシテ最有望ト認メタル四脚亭及崁脚（金包里堡）ノ二個所ニ就キ不取敢各約二百萬坪ノ鑛區ヲ假ニ選定セシメタリ

因ニ當時右四脚亭區域（基隆ノ東南約三里乃至一里半）採炭可能量ハ三百七十八萬噸金包里區域（基隆ノ西北約五里半）ノ採炭可能量ハ約四百六十七萬噸ト見込マレタリ  
而シテ之ヲ海軍ニ保留センガ爲ニハ當時成ルベク速ニ機宜ノ措置ヲ執リ置クノ要アリシヲ以テ翌三十年一月同部長ハ此際費用ヲ要セズシテ手ニ入ルベキモノニ限リ先づ海軍部ニテ調査ノ上假ニ海軍用ト定メ海軍省ニ報告スルコト、致度趣ヲ上申シ海軍大臣ノ認許ヲ得タリ（三十、一、二七官房第三九六九號ノ四）

一方時ノ石炭調査委員ハ内地ニ於テ前記臺灣見本炭ノ試驗ヲ行ヒ大元埔、四脚亭、崁脚炭ハ品質良好ニシテ將來軍用炭トナスノ望ナキニアラズ

四脚亭、金  
包里炭田ヲ  
保留ス  
(明治三十一年)

其他ノモノハ劣等ニシテ望ナキ旨ヲ報告セリ 是ニ於テ海軍部ハ四脚亭及金包里（崁脚）炭田ヲ海軍用ニ保留シ就中四脚亭ニ對シテハ實測ヲ遂ゲ其區域二、九三六、八〇八坪ヲ報告セリ  
金包里ニ對シテハ當時土匪橫行等ノ爲實測ヲ遂グルニ至ラズ後年ニ延期セラレタリ

然ルニ臺灣總督府ハ領臺後明治二十九年九月律令ヲ以テ鑛業規則ヲ定メ清國時代ヨリノ舊採掘權ヲ認メアルノミナラズ舊習ノ儘密掘ニ依リ生活セルモノ亦尠カラズ 海軍鑛區内ニ於テ遽カニ之ヲ禁止スルコトハ直ニ其生計ヲ奪ヒ彼等ヲ驅テ土匪化セシムルノ憂アリシト其ノ處置ハ臺灣統治上ヨリシテモ重視セラレタリ

之等ノ事情ニ鑑ミ明治三十一年海軍當局ハ黒國臺灣總督府海軍參謀長ト協議シ此際總督府ノ監督下ニ民業者ヲシテ從來採掘ニ關與シアリシ土人ヲ其儘使役シテ海軍鑛區ノ採掘ヲ請負ハシメ以テ同方面ノ艦船用炭ヲ供給スペク詮議ヲ進メタルガ總督府ニ於テ之ガ監督困難ナリトノコトニテ實行ニ至ラズシテ止ミタリ

其後民間ヨリ海軍鑛區ノ採掘運動ヲナスモノ漸ク多ク前記ノ密掘取締ノ問題トモ關聯セシメテ帝國議會其他ニ種々ノ論議ヲ招クニ至レリ殊ニ崁脚鑛區ノ如キハ實測未了ニテ區域モ判然セズ取締モ格別行屆カザル狀況ニ在リシタメ總督府海軍部ハ此際寧ロ之ヲ開放スルヲ可ナリトシ其

旨海軍大臣ニ上申スルニ至リシガ本省ハ之ヲ容レズ當初ノ目的通リ速ニ實測ヲナシ豫備炭田下シテ取締ヲナスベキ旨ヲ命ゼリ（三三、一一、一四海總第二六三二ノ二）  
依テ海軍部ハ同地ノ實測ヲナシ總督府ニ手續ノ結果明治三十五年八月初メテ兩海軍鑛區ノ區域ヲ確定セラレ同八月九日臺海主第一二三號ヲ以テ兒玉臺灣總督ヨリ山本海軍大臣ニ其旨報告セラレタリ

（明治三五  
年八月）

之ニ依リ確定鑛區ノ坪數左ノ如シ

四脚亭 一鑛區 二、〇六五、七〇四坪  
崁脚 一鑛區 四、五六三、六四四坪

明治三十五年八月 後藤民政長官（新平）ハ島内ニ於ケル石炭不足シ内地炭ヲ輸入スル狀況ニ立チ到レルノ理由ヲ以テ四脚亭海軍炭山ノ一半ヲ民政部ニ所管換シタキ旨海軍ニ交渉アリ海軍ハ證議ノ末右ハ島内事業ノ發達上不得已儀ト認メ條件ヲ附シ同意ヲ表スル處アリシガ其區域及條件ニ關シ交渉成立セズ沙汰止トナレリ（三六、五、海總第六一四號ノ三）然ルニ明治三十九年一月ニ至リ民政部ハ大体同前ノ理由ノ下ニ更メテ四脚亭鑛區ノ全部ニ對シ所管換ヲ要求シ數回ノ應答ヲ經テ海軍當局ハ右炭田ノ一部八七一、一〇四坪ノ區域ヲ指定シ左ノ條件ヲ附シ同意

ヲ表セリ

左 記

一、有事ノ時若クハ海軍省ニ於テ必要ト認メタルトキハ其採掘シタル石炭ヲ採掘及運搬費ヲ積算シタル價格ヲ以テ海軍ノ需用ニ供セシムルコト

一、採掘設計及其事業ノ進行ニ關シテハ時々海軍省ニ報告スルコト

一、採掘高ハ一ヶ年五萬噸以内ノコト

（編註）本件所管換ニ付デハ多少手續上ノ行キ違モアリテ臺灣ニ於テハ既ニ四十年一月授受依テ翌明治四十年二月原内務大臣ハ内務省臺甲第六號ノ四ヲ以テ表テ向キ齋藤海軍大臣ニ照會アリ同三月官房第九〇二號ノ二ヲ以テ異存ナキ旨ヲ回答セリ

ヲ了シ民政部ハ之ヲ開放シテ貴族院議員 荒井泰治ニ許可シ荒井ハ其ノ名義ノ下ニ賀田金三郎ナルモノヲシテ實際ノ事業ニ從事セシメシガ後大正二年荒井名義ヲ賀田

名義ニ變更セリト云フ

斯ノ如ク海軍ハ總督府ノ要望ヲ容レ鑛區ノ一部ヲ開放セシガ其後ニ於テモ歷代ノ民政長官ハ四

（明治三五  
年八月）

四脚亭鑛區  
ハ一部開放  
ス及其條件

總督府側ハ  
海軍鑛區開  
放ノ要求ヲ  
繰返シ海軍  
常ニ拒絶ス

八〇

脚亭鑛區ノ殘部又ハ崁脚鑛區ノ開放及前記條件中ノ探掘許可額五萬噸ヲ十萬噸ニ増加スル等ノ件ニ關シ要求ヲ繰返ヘシ其ノ都度海軍ノ同意ヲ得ズシテ止メリ 其ノ一々ノ應答詮議ノ狀況ニ付テハ記述ヲ省略スルモ参考トシテ大正二年十月海軍次官ヨリ民政長官ヘノ回答ヲ左ニ掲グ

大正二年十月三十日官房機密第四七四號ノ四財部次官回答

四脚亭竝ニ金包里崁脚海軍豫備炭田ニ關シ民殖第三〇二三號及民殖第二三八三號ヲ以テ御照會ノ處本件ニ就テハ嚮キニ回答致置候通り探掘竝ニ保管轉換等一切承認セザル方針ニ有之今後共同斷ニ候條御了知相成度

右回答ス

(註) 總督府側ガ海軍炭田ノ開放又ハ增掘ヲ要望スル所以ハ島地ニ於ケル鐵道ノ開通、文化ノ發達ニ伴フ石炭ノ需要ヲ充タサントスルモノニシテ明治四十五年四月、福富鑛務課長ノ「海軍省豫備炭田開放拒絕ニ對スル舉見」ニモ其ノ事情ヲ明カニセリ 而モ前記ノ如ク數年間海軍ノ明確ナル拒絕ニ不拘際限モナク要求ヲ繰リ返ヘシ海軍ヲシテ應答ノ煩ニ堪ヘザラシムル如キ狀況ナリシコトハ之ヲ當時ノ文書断片ニ徵スルニ所謂政界

海軍鑛區全  
所管換部  
(大正三年  
一二月)

有力者ナルモノ、利權運動ノ弊ニ累セラレ民政部當局モ斷手却下ノ處置ニ出デ難ク免モ角問題ヲ海軍ニ移シ海軍ノ拒絶ヲ待テ處分スルヲ好都合トセルニアラズヤト觀察セラル

然ルニ此頃ヨリ海軍ハ漸ク重油燃料ノ問題ヲ重視シ別ニ述ブルガ如ク大正二年十二月特ニ職員ヲ派シテ臺灣ノ油田地ヲ調査セシメ爾來民政部ト交渉ノ末大正三年十二月五日民殖第二五〇七號ノ三佐久間臺灣總督ヨリ八代海軍大臣ヘノ回答ニ據リ五ヶ所ノ海軍豫備油田ヲ設定シ其代リ多年ノ懸案タリシ四脚亭及崁脚ノ石炭鑛區ハ全部之ヲ總督府民政部ニ所管換スルコト、ナレリ

(第三編 臺灣油田記事參照)